

# 学 会 録 事

## 1. 2016 年度第 4 回持ち回り評議員会

第 4 回持ち回り評議員会（2016 年 12 月 19 日～12 月 31 日）を開催し、【議案 1】「日本藻類学会会則第 3 条第 4 号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき、特別賞（2017 年 3 月授与）を山岸高旺氏に授与する。」の可否を審議した。その結果、国内評議員 16 名のうち 14 名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。また、【議案 2】「日本藻類学会会則第 3 条第 4 号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき、学術賞（2017 年 3 月授与）を横濱康継氏に授与する。」の可否を審議した。その結果、国内評議員 16 名のうち 14 名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。

## 2. 自然史学会連合

2016 年度自然史学会連合総会が 2016 年 12 月 23 日に東京大学総合研究博物館ミュージズホール（東京都文京区）で開催された。北山太樹会員（国立科学博物館）が出席した。

### <報告事項>

1. 現在の加盟団体は 39 学協会（陸水学会が退会し、DNA 多型学会が入会）。2. 運営委員会を 4 回開催。3. 博物館部会を 3 回開催。4. ICOM 京都会議（2019 年）に向けた情報交換会を開催（10 月 24 日）。5. 平成 28 年度自然史学会連合講演会の準備：2017 年 1 月 21 日（土）群馬県立自然史博物館「ひろがる自然史！～カイコから恐竜まで～」(主催：自然史学会連合・群馬県立自然史博物館)。6. ホームページを適時更新（各学協会のイベント企画の宣伝に使用可能）。7. 「理科好きな子に育つふしぎのお話 365」（誠文堂新光社）出版後の経過：2015 年 2 月に出版し、2016 年 6 月時点で 6 万部を発行。2016 年 1 月に台湾語版、10 月に中国語版を出版。2016 年度産経児童出版文化賞（JR 賞）を受賞。副賞 30 万円が連合の 2016 年度収入となる。8. 後援・協賛：2017 年度生命科学系合同年次大会（神戸）へ協賛（加盟学協会員は会員価格での参加が可能）。藤原ナチュラルヒストリー振興財団シンポジウム（神戸）を後援。9. その他：日本学術会議協力学術研究団体の登録情報を更新。ABS 問題の動向（国内処置の運用開始が遅れている。省庁間の調整が難航。日本から持ち出す際はフリーにしてほしいとの要望を分類学会連合が出している。海外から生物試料を持ち込む際には原産国の法令を遵守することが求められる）。連合顧問の岩槻邦男氏が COSMOS 国際賞を受賞。

### <審議事項>

1. 2015 年度会計決算報告：過半数（委任状を含む）の挙手をもって承認された。2. 同監査報告：関係書類通帳を調べたところ適切に処理されていることを確認。3. 2016 年度会計経過報告：説明の後承認された。2 団体が分担金未納。4. 2017 年度の事

業計画：運営委員会 3 回、博物館部会 3 回、講演会 2 回（8 月に大阪自然史博、11 月にアクアマリンふくしま）の実施を計画。5. 2017 年度予算案：講演会費および講演者旅費の増額が必要となるが、産経児童出版文化賞の賞金を充当し、諸経費を節約することで実施が可能。他の経費はほぼ例年通り。事業報告および 2017 年度予算案は過半数（委任状含む）の挙手をもって承認された。会計監査は五百川氏から大村氏へ交代する。6. その他：国立自然史博物館の動向（大型研究計画の複合領域に提案されたが、重点領域には採用されなかった。学術会議に推進委員会をつくり、今後も検討をすすめる）。大学が求められているアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの策定について（3 ポリシーの策定に当たり、日本学術会議の各委員会で作成している分野別参照基準を参考にするよう中央教育審議会から指導されているが、将来、大学ごとに評価を受ける際にこの参照基準が一つのガイドラインとなる可能性がある）。生物科学学会連合の動向（2017 年に合同年次大会を開催する）。学習指導要領の改訂に向けて（高等学校では理科を各教科に分けるのではなく、ひとまとめの教科とする動きがある。学習指導要領に載るかどうかで学生の理解が大きく変わってくるため、今回抜けている分野は次回改訂時に注視する必要がある）。

## 3. 日本分類学会連合

日本分類学会連合第 16 回総会が 2017 年 1 月 7 日（土）10:00～12:00 に国立科学博物館上野本館講堂で開催された。峯 一郎庶務幹事が出席。

### <報告事項>

1. 活動報告：(2016 年度) 日本学術振興会賞、国際生物学賞の推薦周知（2 月 15 日）、日本学術振興会育志賞推薦依頼の周知（3 月 22 日）、熊本地震に対する生物科学学会連合声明発表（4 月 25 日）、第 35 回役員会開催（4 月 28 日）、加盟団体の取り組みに関するアンケート依頼（5 月 9 日）、学術会議提言「国立自然史博物館設立の必要性」を加盟団体へ周知、HP への掲載（6 月 13 日）、岸本健雄氏（日本学術会議）より国立沖縄自然史博物館設立実行委員会委員として日本分類学会連合から村上哲明氏の参加要請があり、役員会で承認（10 月 7 日）、藤原ナチュラルヒストリー振興財団 神戸シンポジウム 後援（10 月 22 日）。(2017 年度) 第 36 回役員会を開催（1 月 6 日；東京大学総合研究博物館）。2. ニュースレター：第 27 号を発行（7 月 31 日）、第 28 号を発行（11 月 17 日）。3. ホームページ：ホームページを維持・アップデートし、ニュースレターおよびシンポジウム情報を公開した。4. データベース：「日本産生物種数調査」と「国内重要コレクション調査」の公開ページの維持管理を行った。「国内重要コレクション調査」については、動物コレクションの調査方法について検討を行った。5. メーリングリスト：メーリングリスト TAXA の会員数

は2016年12月31日時点で「1,062名(2015年末から17名増)」。6. その他(1) 国立沖縄自然史博物館設立について:村上哲明委員の現状説明に対して質疑応答が行われた。(2) ABS (Access and Benefit-Sharing) について:村上哲明委員からの現状説明に対して質疑応答が行われた。

#### <審議事項>

1. 2017～2019年度役員選出:役員会案(連合規約第8条監査員:山口富美夫(広島大学)(2017～2019年度))が説明の後、承認された。2. 2016年度決算(分担金支払状況、決算案(一般会計、特別会計)、会計監査報告)が説明の後、承認された。3. 2017年度事業計画(1) 2017年第16回公開シンポジウムの開催(2017年1月7日 13:30～17:00「若手分類学者の底力を見よ! -社会の眼も意識しつつ-」(国立科学博物館上野本館講堂))。(2) 2018年第17回公開シンポジウムの開催(2018年1月6日(土)の午後を予定)。(3) ニュースレター:29号(2017年5月発行予定)、30号(2017年10月発行予定)。(4) ホームページ:例年通りの予定。(5) データベース:生物種数調査のアップデートに向けてアンケートを予定している。(6) その他:(意見) CITESへの対応について経産省と交渉を予定している。将来は連合の協力も必要になる。以上、すべて承認された。4. 2017年度予算:(一般会計)2017年度分担金10,000円、赤字を例年の約20万円から10万円に圧縮する予算案が承認された。5. その他:(1) 総会・シンポジウムの会場について費用が従来のように免除にならない可能性が出てきている。負担がかからない方法を幹事会で今後も検討していく予定。会場提供は歓迎する。(2) メーリングリストについて、担当者が定年退職予定。Taxaの今後を検討する必要がある。

#### 4. 水産・海洋科学研究連絡協議会

平成28年度第1回協議会が2016年5月31日に東京海洋大学品川キャンパスで開催された。田中次郎会長が出席。

#### <議題>

1. 平成28年度第2回水産・海洋科学研究連絡協議会議事録案

の確認:説明があり、承認した。2. 議長の選出:渡部氏が選出された。3. 副議長の選出:日本水産学会(塚本氏)、日本藻類学会(田中氏)、日本ベントス学会(大越氏)が選出された。4. 幹事の選出:竹内氏、佐野氏が選出された。5. 各学会の情報交換:各学会の活動の紹介があった。6. 日本学術会議の大型研究計画について:資料に基づき説明があった。7. 「生物多様性条約・名古屋議定書」に関する農学分野の課題について:資料に基づき説明があり、意見交換が行われた。8. 地球温暖化時代における持続的な水産業のあり方について:資料に基づき作業状況について説明があり、意見交換が行われた。9. シンポジウムの開催について:資料に基づき説明があり、意見交換が行われた。10. 平成28年度熊本地震への対応について:今のところ声明などは出していない。協議会メンバーからも特段の対応を行っていないとの報告があった。11. その他:シンポジウム、日本学術会議若手科学者ネットワークの紹介、法人化後の公益認定等委員会立入検査について情報提供の依頼があった。

平成28年度第2回協議会が2016年11月14日に東京海洋大学品川キャンパスで開催された。田中次郎会長が出席。

#### <議題>

1. 平成28年度第1回水産・海洋科学研究連絡協議会議事録案の確認:資料に基づき説明があり、承認した。2. 各学会の情報交換:各学会の活動が紹介された。3. シンポジウム「成熟社会における持続可能な水産業のあり方とその中長期戦略」について:資料に基づきシンポジウムとその企画趣旨の説明があった。4. 日本学術会議の会員、連携会員候補者の推薦について:渡部氏より報告と呼びかけがあった。5. 日本学術会議の大型研究計画について:資料に基づき報告があった。6. 日本学術会議提言「学術研究の円滑な推進を保障した名古屋議定書批准に向けて」について:参考資料に基づき説明があった。7. 日本学術会議の安全保障と学術に関する検討委員会について:検討委員会の発足およびその検討課題について報告があった。8. 東京オリンピック・パラリンピック食料調達基準に向けた持続可能な水産物のあり方(エコラベル)について:参考資料に基づき関連するシンポジウムの内容の報告があった。

## 自動会費納入

#### 会員各位

会員管理事務の効率化と経費削減のため、自動振替による会費納入にご協力下さいますようお願い申し上げます。当面の間は引き落とし手数料(税別155円)を学会の負担とさせていただきます。また、自動振替をご利用の会員全員に領収書を発行させていただいております(送付は12月末の引き落とし後)。

事務手続き上、外国会員につきましては従来通りクレジットカードによる、また学生会員につきましては郵便振替による振込みのみとさせていただきますので、ご了承ください。振替依頼文書をご希望の方は、下記事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

庶務幹事(会員担当)

#### 【お申込み・お問い合わせ先】

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050  
新潟大学 理学部 上井進也 宛

Tel 025-262-6173

E-mail uwai@env.sc.niigata-u.ac.jp